

会 議 録

- 1 会 議 名 令和8年度第1回山形市清掃問題審議会
- 2 開催日時 令和8年7月22日（水）午前10時30分から正午まで
- 3 開催場所 山形市役所10階 委員会開催室

4 次 第

- (1) 開 会
- (2) 会長あいさつ
- (3) 審議会委員・幹事の紹介
- (4) 議事録署名人の選出
- (5) 報告等
 - ・令和7年度ごみの排出量の報告
 - ・その他
- (6) その他
- (7) 閉 会

5 出席者

- 【委員】國方委員（会長）、鈴木（雅）委員、山川委員、鈴木（淳）委員（副会長）、長瀬委員、前野委員、渡邊委員、大久保委員、三部委員、渡辺委員、大場委員
- 【幹事】環境部長、廃棄物指導課長、循環型社会推進課長
- 【書記】循環型社会推進課課長補佐、循環型社会推進課循環型社会計画係長、資源循環推進係長、分別収集係長、循環型社会計画係員
- 【生活排水処理基本計画関係】
廃棄物指導課課長補佐、廃棄物指導課一般廃棄物係長、廃棄物指導課施設係長

6 傍聴者数

一般傍聴者数 0名 記者数 0名

7 資 料

- (P1～5) 令和7年度ごみの排出量の報告
- (P6～7) その他（粗大ごみ収集オンライン受付について）
- (別紙) リチウムイオン電池の分別について（チラシ）

8 内 容 (1)～(4)

- ・開会
- ・会長挨拶

非常に暑い中、ご出席いただき感謝申し上げます。

山形市のごみ問題については、全体的に見ると順調に進んでいるかと思っている。

しかし、事業系ごみなどは、なかなか計画通り進んでいないところもある。

そういった点は、この審議会で皆様のご意見をいただきながら、順調に進むようにしていきたいと思うので、活発な発言をお願いしたい。

- ・審議会委員と出席幹事の自己紹介後、國方会長が会議の議長として議事の進行を務める。
- ・議事録署名人について、会長及び会長より指名された長瀬委員が選出された。
- ・議長は会長が行った。

(5) 報告等について、循環型社会推進課長が資料に基づき説明を行った。

以下、質疑応答及び議事経過

- ・令和7年度ごみの排出量の報告について

発言者	発 言 要 旨
事務局	資料に基づき説明。
渡邊委員	PTA 連合会では、会議などがあった際に、各々の家庭でごみを減らしたり、分別をして資源に回せるものは回すというような呼びかけしている。今後どのような努力をしていけば良いのか悩んでいるので、資料を拝見し、皆様のお話も聞きながら、どのような努力ができるのかを考え、PTA に話を持っていきたいと考えている。
大久保委員	4 ページの最終処分量についての提案で、実績に残容量についても示していただければありがたい。容量が残り少なくなっていく場合に、最終処分場の必要性の啓発に結びつくと思う。そうした活動もいずれも必要になるため、これを実績の中に盛り込むことによって、今後の活動に反映させていただければと思う。 また、5 ページの生活排水処理率は目標を達成しているが、これによってどんな効果が得られたのか。
事務局 (廃棄物指導課)	最終処分場については約50万m ³ あり、令和7年度末で約41万2千m ³ 埋め立てられ、残余量は約9万m ³ となっている。現在、近隣地に第2期工事と称して、約25万m ³ 規模の埋立可能箇所の工事を行っている。 今後いつまで使えるかというと、残余量と現在の工事完了を合わせた約34万m ³ に、ごみの減少量も含めた割り算で割り返して出すことができる。 しかし、市民の利便性の向上が一番だが、次に大事だと思っているのが、地元の住民の方との約束である。平成30年に、地元住民といつまで最終処分場が使えるのかを協議した結果、埋立期間を令和30年までとし、さらにごみの減少という要素も加えるとプラス10年、令和40年ぐらいまで使用可能となる協定を締結している。それ以上の年数については、再度地元住民と話をして決めていくことになるかと思っている。 続いて5 ページの生活排水処理率について、向上したことでどのような効果が得られたかについては、市民の声を直接聞いてはおらず、把握していない。

	しかし、県では施設の整備率を出しており、山形市は99.6%の設備を保持している。目標で示している接続の促進というのは、このような施設にどれだけ市民が接続し、昔でいう垂れ流しのような状態を無くしていくかということで、重要なパーセンテージになる。 浄化槽の数は、令和7年度末で4,016基あると把握しており、ここ3年間で、年間約70から100基ずつ減ってきている。単独浄化槽を下水道や合併浄化槽に切り替えると、生活排水処理率の分子の数が上がるということで処理率も向上する。この向上は、市民の環境衛生に資するものになると思う。
大久保委員	合併浄化槽、単独浄化槽とは何か、用語の説明をお願いしたい。
事務局 (廃棄物指導課)	合併浄化槽というのは、家庭の中から排出されるし尿糞尿、台所・風呂等の生活雑排水を集約し、槽によって処理をして、真水状態に戻してから側溝に流すというものである。 単独浄化槽というのは、し尿糞尿の処理は行って排出するが、台所・風呂等の生活雑排水はそのまま側溝に流すというものである。 市にも度々悪臭の苦情等がある。下水道関係部署等と協調しながら、指導、清掃関係の依頼を行っている。
三部委員	1ページで、フードドライブを6月に実施したということだが、これは今回が初めての取組だったのか。
事務局 (循環型社会推進課)	山形市では今回初めての取組であった。
三部委員	山形市では以前に市の備品を処分するのでなく、必要としてる方にお譲りする活動もしており、そのまま行くとごみになってしまうものをごみにさせないという取組が素晴らしいと思っている。フードドライブもそういう方向性に合致していると思うので、こういった方向性で今後も取り組んでほしいと思う。 2ページの「お古紙ください協議会」について、実態がよく分かっていない。ホームページ等で回収品目や、どのような手続きを踏むかといったことは公開されているのか。
事務局 (循環型社会推進課)	ホームページに掲載しているので、こういったものが回収できるか確認できるようになっている。
三部委員	個人で行政書士事務所をやっているが、士業事務所は電子化が進んでいるとはいえ大量の古紙が出る。協議会の名前は聞いたことがあったが、実態は知らずに利用もしていない。士業事務所もこういう事業を知っていると利用に繋がると思うので、そういったところへも周知していただけたらいいと思う。
渡辺委員	家庭用ごみが削減されたことはとても喜ばしいと思う。 ごみ袋に詰める時に、最低限のものをぎゅうぎゅう足で踏みつけて、ごみ袋に収め

	るように努力はしている。ただ、食品トレーは家で保管する際に、トレーごとに大きさが全然違いかさばる。そしてスーパーに行くたびにかさばる荷物を持っていかなければならないのが負担である。食品トレーの大きさという問題は、市ではどうすることもできないのか。
事務局 (循環型社会 推進課)	スーパー等での回収はリサイクルにつながるので、できる限りもやせのごみには出さずに、スーパー等の回収に出していただきたい。市もスーパー等に出向いてキャンペーンを実施しており、ぜひ店頭回収へをお願いしている。家庭でご苦勞をお掛けしてるかと思うが、ごみも減りリサイクルもできるため、ぜひ引き続きお願いしたい。
渡辺委員	品物によりいろんな種類や大きさのトレーが出てくるが、統一はできないのだろうか。
事務局 (循環型社会 推進課)	これは企業活動にも関わってくることから、市で呼びかけるのは難しい。店頭回収等をご利用くださるとリサイクルできるため、今後もお願いしたい。
渡辺委員	昨年度の審議会で、レジ袋がごみ袋として使えるようになるという話があり、検討していると説明があったが、どこまで話が進んでるのか。
事務局 (循環型社会 推進課)	昨年度、レジ袋をもやせのごみ袋として活用する実証事業について、検討していると説明し、実際に検討を進めていた。 その中で、自治推進委員長へアンケートを実施したところ、賛成も多くあったが、集積所へのごみの出し方について不安がある、管理が難しくなるといった意見が一定数あった。また、この事業以外でごみの減量を進める施策があるのではないかとといった意見もあった。山形市としては、一部の住民の理解が得られない中で進めることは難しいということで、実施を見送っている状況である。
大場委員	３ページの山形市リサイクル指標について、下がり傾向にどうしても目がいってしまい、目標からもかけ離れているように見えてしまう。リサイクル率を高めるための新たな取組など、市で行っているものがあればご紹介いただきたい。
事務局 (循環型社会 推進課)	ペットボトルに関しては、ごみ処理施設に集められたペットボトルについて、業者に渡して再びペットボトルにするという水平リサイクルを進めている。セブンイレブンでも店頭でペットボトルを回収し、それを水平リサイクルに回す取組を行っているので、市も一緒に PR を行っている。 また、SAF に関しては、行政で回収するということは難しい。以前は市内でも廃油からバイオディーゼルの燃料にして車に使用したこともあったが、そういった車両も少なくなっており、一旦廃止し、現在事業としては行っていない。SAF に関しては各地で様々な取組が行われている。山形市でも、こういった形で取り組めるのかということで課題、検討にも上がっているため、引き続き検討して、こういった活動ができるのかを考えていきたい。
議長	リサイクル率が徐々に下がっているというのは事実なので、リサイクル率が上がっていく、上げるための施策をぜひご検討いただければと考えている。

前野委員	市民1人1日当たりのごみの排出量は減少しているということで、皆さんの努力の賜物だと感じている。 環境保健推進協議会は、各地元に根差した形で現場の声を聞き、市民との一体感を持ちながら活動してきたが、目標を達成したことや、役員のなり手がいないといった問題もあり、今年度をもって解散という運びになる。これにより、協議会の活動を一気に市が担うこととなるため、市にも負担がかなりかかり、現場の声を拾うことや、市民との繋がりを持った活動ができるかが危惧するところである。市でしっかりと現場を把握して、今後とも家庭系ごみが減る方向に持っていければと感じている。 事業系ごみについては、山形は農業県であるので、特にビニールやハウスといったプラスチック系の農業系廃棄物を大量に捨てたり、或いは災害に遭ってハウスが飛んだりしてごみが大量に出ることもあるのかなと思うので、その辺も十分に把握しながら対応いただければと思う。事業系ごみは、市民はなかなか把握しづらいところでもあるため、どんなごみがどうやって出るのか、難しいところではあるが把握し頑張っていたきたい。 また、最終処分量についても、年々削減する目標ではあるが、なかなか目標達成できないところがあるので、しっかり対応をいただければと思う。 全般的なごみの削減という意味では、市民との関わりを持ちながらチャレンジしていくような方向を考えていかないと、なかなか難しいのかなと考える。現場の声を拾い、市民等の繋がりをどうやって持っていくかということを、常に頭に置きながら業務を行っていただければありがたい。 プラスチックの削減という面では、最近マイ容器やマイボトルを自分で持ってくることもあと聞いている。事業者との関わりがあるので難しいところではあると思うが、もう少し持参率を増やしていければ良い方向に向かうのではないかなと思う。 環境美化推進については、子供の頃から、ごみ減量のための行動をすることは、市、或いは県、地球にとっても非常に大事なんだということを教えていくことも、大事なかなと思うので、そのような取組も考えてやっていただければと思う。
長瀬委員	ごみ減量もったいないねット山形は、6月1日に総会を行い、その際にフードドライブということで、食品を持ち寄ってくださいというような案内をした。初めての活動ということなので、頑張らせていただきたいと思っている。 また、総会の際に講演会ということでセブンイレブンからお話を聞いた。集めたほとんどのペットボトルはリサイクルされてるということを学習させていただいた。 もったいないねットでは、「もったいないその一言がごみ減らす」のような、かるたを作り、かるた大会を開いている。子供たちへの、環境やごみを減らすといった勉強に役立っているのではないかなと思っている。ただ、2月の開催であり、インフルエンザや雪の影響で参加人数が減っている。そこで、今年度は幼稚園や学童のところに出向き、かるた大会をしてみようかと考えているので、皆さんからのご理解と応援をもらえればと思っている。

事務局 (循環型社会 推進課)	子供の力というのは非常にこれからの生活にも関わっていくと思うので、市もねっトの皆さんと一緒に学校等へ行きながら、活動に力を入れていきたい。
鈴木(淳) 委員	私の身の回りを見ると、断捨離をしてる人たちや、空き家は随分増えており、そこで出るごみは増えているが、それでも全体としては減っているということは素晴らしいと思う。 山形市消費者連合会の若い会員の方から、リチウムイオン電池の回収場所が分からないと相談があった。そしてその若い会員がAIに聞いたら、砂に埋めておけというので、その通りしたそう。適正処理というのは分かっているようで分かってないし、今更聞けない。こういうことぜひ発信していただければと思う。 また、フードドライブについては素晴らしい活動なので、ぜひ参加させていただきたいと思う。どのようにしたらいいかもご相談したい。
事務局 (循環型社会 推進課)	リチウムイオン電池については後ほど話をするが、いろいろ混ざったごみにより、ごみ処理施設や収集車で火災が起きてるということもあるので、その周知も入れていきたいと思う。 フードドライブに関しては今年初めて実施した。今後も継続しながら、県やスーパーで行っている事業については、市でも一緒にPRしていきたいと思っている。
山川委員	事業系ごみは、業種が多岐にわたるので一概には分類が難しいと思うが、どのような内訳になってるのかなと思った。品目ごとに、減りが悪いか、むしろ増えてるようなものがあったら、そこをフォーカスして対策を考えるというような方法もあるのかなと思った。
事務局 (循環型社会 推進課)	事業系ごみのうち、98%はもやせるごみである。オフィスからは紙、飲食店からは食品残渣など、業界によってもやせるごみの内容は変わってくる。しかし、その大半がもやせるごみであるので、先程の「お古紙ください協議会」のように、お知らせしてリサイクルに出していただくことや、食品残渣は堆肥化していただくことなどを常に促してはいる。なお一層力を入れて呼びかけて参りたい。
鈴木(雅) 委員	3ページでリサイクル率を説明いただいた中に、新聞販売店の回収というのがあったので、補足的に我々の取り組みについて説明をさせていただきたい。山形新聞では数年前から古紙の回収に力を入れる取組を行っている。読者の読み終わった新聞を販売店、業者の2段階で回収し、製紙会社の方に受け渡し活用する取組となっている。新聞購読自体は右肩下がりの傾向にあるが、古紙回収量が増えているので、今後も続けていきたいと考えている。 最近の暑さにより、収集する作業員もかなり苦労があるのかなと感じる。こういった状況下での収集作業で、予想外のトラブルがあったのか、またそれに対する対応とっているのかをお聞きしたい。 また、昨今の中東情勢の緊張に伴うナフサ不足について、山形県内でも他の種類の袋も使えるとした自治体もあると報道したが、山形市の今後の見通しはどうか、

	教えていただきたい。
事務局 (循環型社会 推進課)	今のところ、猛暑による作業中の事故や熱中症の報告は入ってきてない。また、リチウムイオン電池に関して、発火や発煙が後を絶たない状況で、いかに減らす努力をして、作業員の方々の安全を保つかということにもつなげていきたい。 また、ごみ袋不足について、5月から6月はごみ袋がなくなるという全国的な報道もあり、買いだめが起き、どうなるのかなという状況もあったが、供給業者やごみ袋製造業者とも話をして対策を進めた。また市長記者会見や、新聞への掲載なども功を奏し、買いだめは治まり、ごみ袋は十分に供給ができています。買いだめさえ起きなければ十分な状況である。 今後についても、原料確保の面は供給業者、製造業者とも話し、引き続き安定供給に努めること、必要な分だけ買ってくださいということを常に呼びかけながら、不足しないようにしたい。
議長	ごみ収集作業員について、この猛暑の中で、熱中症対策はされているのか。 また、事業系廃棄物、中でも古紙類がどの程度リサイクルされているのかが、リサイクル率と関わってくる。事業者の廃棄物量は多いため、リサイクルに回せるものは、できるだけ回すとリサイクル率も上がるし、廃棄物の排出量も下がるため、二重の意味で非常に意味がある。ぜひ事業者への訴えについては、強化していただければいいのかなと思う。
事務局 (循環型社会 推進課)	ごみ収集運搬作業については委託しており、作業員の熱中症対策としては、十分な給水、飴の支給、飴を口に含みながらの作業を許可している。マスクについては、場合によっては必須になるが、状況に合わせて外すことや、日差しへの対策としてサングラスの着用を許可している。作業終了後、事務所に戻ったら、涼しい部屋で十分な休憩、水分を取るようお願いしている。 事業系廃棄物について、大規模事業者における資源化率は、紙類が94%、厨芥類が41%、ビン類が73%、缶類が95%となっている。なお、資源化率を上げていけるように、市でも呼びかけを続けていきたい。

・その他（粗大ごみ収集オンライン受付について、リチウムイオン電池の分別について）

発言者	発 言 要 旨
事務局	資料に基づき説明。
議長	粗大ごみ収集オンラインについて、市民の利便性向上と行政手続の効率化において非常にいい取り組みだと思う。

(6) その他は特になし。

以上